

しあわせの村まつり—2014—

しあわせの村まつりが7月26日午後3時30分から午後8時30分まで、中央緑道や芝生広場一帯で開催され、家族連れや若者ら25,000人が詰めかけ、大変な賑わいでした。

グループ〈わ〉の担当はわんぱくゾーン。むかし遊び研究会は、水鉄砲、ヨーヨーつり、竹馬などのブースを設け、うらしまたろうは、動物風船と皿回しを準備。子どもたちは、お目当てのブースに行儀よく並び順番を待っていました。本部は、芝生広場にフロアカーリングと輪投げのコーナーを開設。中々の人気で若いパパ、ママさんも目の色を変えて挑戦、楽しい笑い声が響きました。ことし初めての試みの水鉄砲（写真⑤）は150個を用意したそうです。1個作るのに30分。子どもたちは、最初是要領がわからず、苦戦していましたが、スタッフに手ほどきされ、最後は10



メートルも飛ばして満足そうでした。竹馬は大人気で、最初から最後まで十数人が順番待ち。スタッフの女性は「暑くて大変だけれど、子どもの輝く笑顔を見ると疲れも吹き飛びます」といいます。

緑道にはかき氷、綿菓子、タコ焼きなどの屋台が約40店並び、シルバーカレッジの国際友の会はヨーヨーひろばを出店。この日昼から2時間かかって、風船1500個を膨らませたそうです。

この日、空は真っ青に晴れあがり、最高気温は32.6度。緑道入り口にはミスティオアシス2機が設置され、涼しい霧を浴びる人が絶えません。芝生広場のステージでは、各団体が熱気あふれるダンス、和太鼓を披露。ビンゴ大会もあり、午後7時からは「Tomorrow」で200万枚の大ヒットを飛ばした岡本真夜さんのライブ。美しい歌声で、真夏の夜を彩りました。（取材・永野知己 写真・木村茂男）

水の科学館 ものづくりイベント

水の科学博物館で、8月5日～17日までの12日間「ものづくりイベント」が、開催されました。

12グループが日替わりでブースを担当。連日、大勢の家族連れや若者らが詰めかけ、大変な賑わ



いでした。

取材を行った9日は「チームたんすの肥やし」（藤本明美代表・生17）のマグネット帽子づくり。台風11号接近の中で心配しましたが、午後は雨が止んで、家族連れが30数名が来場し、楽しそうに帽子づくりを楽しみました。

材料は家庭で捨ててしまっている、要らなくなったハンカチなどの布きれ、牛乳パック、ペットボトルのふた、マグネットシート、紐、輪ゴムなどです。



スタッフ6名が丁寧に作り方を指導。子どもたちは、楽しみながら、真剣に取り組んで約20分程度で制作していました。

布きれの色や柄とリボンの色によって作った人の個性が出ていて、オリジナルのかわいい帽子が出来たと親も子も共に大喜びでした。

大下昌宏館長は「〈わ〉のイベントは子どもたちに大人気。木工、絵など、ものづくりは夏休みの宿題で、これに頭を悩ませる親からの問い合わせも多く、喜んでもらっている。1日100～150人、学校、児童クラブなど団体さんが入ると200～300人にもなる。〈わ〉さんには昨年の倍もの催しをやっていただき、ありがたい」と話していました。

＝写真左⑤は帽子づくりに

取り組む子どもたち。

⑥は準備したマグネット帽子の見本。

※10日の銀雅は台風のため中止になりました。

（取材と写真・岡本紘一）



●協力サークル うらしまたろう・カーネーション・ケナフ・木工・花実の森・むかしあそび・和楽会・絵手紙・タンスの肥やし・マジック・銀雅・大正琴